

魅力を耕す

高山市では地域の特性を生かした農業生産が盛んです。広報たかやまでは、私たちの暮らしの重要な役割を担っている農業について、特色ある農作物の生産や特徴的な取り組みなどをシリーズでご紹介していきます。

ニンニク、パプリカの生産 新しい特産品開発への取り組み

②上宝・
奥飛驒温泉郷地域

北アルプスの懐に抱かれた上宝・奥飛驒温泉郷地域では、奥飛驒の豊かな水や寒暖差のある気候を活かしたおいしい米づくりのほか、高原山椒、菌床シイタケ、温泉熱を利用したドラゴンフルーツの栽培などが行われていますが、今回は高原そ菜出荷組合の特産研究部会が生産に挑戦しているニンニクとパプリカをご紹介します。

これは、高冷地の特性を活かして生産してきたトマトやホウレンソウを補完する新しい特産品として生産に取り組んでいるもので、今年が2年目の収穫となります。

ニンニクは、昨年10月に30㍻

植え付けされ、6月中旬から収穫が始まっています。現在は生ニンニクの出荷を行っています。一部は乾燥調整を行い9月以降に再出荷を予定しています。

パプリカは、5月中旬から25㍻が植え付けされ、7月下旬から9月までが収穫のピークとなります。いずれも、主に岐阜市場へ出荷し、中京圏の大手スーパーの店頭に並ぶ予定です。

ニンニクは国内産の大半を青森産が占めていますが、近年各地域での取り組みが始まっています。またパプリカも彩りの美しさや認知度の高まりから近年需要が伸びているものの、国内産はわずかで近隣の産地がないため、今後の需要拡大が期待されます。

今後は、生産面積を増やしなから研究をすすめる、魅力ある特産品としてブランド化を目指し、将来的には農地の有効活用や新規就農の受け皿へと期待が膨らみます。

ドライブでちょっと一息

国道471号を上宝町から奥飛驒温泉郷へ向かう途中に「杖石農林産物直売所」があります。直売所では、上宝町内の組合員農家のみなさんが育てた奥飛驒の夏野菜やリンゴ、山菜などを出品しています。上宝・奥飛驒温泉郷へのドライブの際にはぜひお立ち寄りください。

- 問合先 杖石農林産物直売所利用組合
☎0578-86-2001 (J Aひだ本郷支店内)



ニンニクの出荷調整作業



パプリカの芽かき作業

ヤギ・イノシシなどを飼育している方はご一報を

家畜伝染病の口蹄疫は牛や豚だけでなく、ひづめが2つに割れている動物(偶蹄類)に感染の可能性があります。市では防疫体制を整備するため、畜産農家以外の飼育情報を収集しています。イノシシ、ミニブタ、羊、ヤギ、鹿などをペットとして飼育されている方、飼育されている方をご存じの方はご連絡ください。

- 連絡先 畜産課(☎35-3142)

風雨がひどくても屋内なら放送内容がはっきりと伝わります。もう手続きはお済みですか?

高山防災ラジオ

- 申込みは最寄りの電機商業組合加盟店で取り扱っています。
- 利用料は月額300円(平成25年3月まで100円を市が助成)です。
- 問合先 企画課(☎35-3134)

